

演習 リスクアセスメント実施一覧表（実施記載例）

リスクアセスメント対象職場	①～③の実施担当者と実施日	④～⑥の実施担当者と実施日	⑦～⑨の実施担当者と実施日
---------------	----------------------	----------------------	----------------------

災害の重篤度	発生可能性	対応策
優先度Ⅰ	○=時々・△=比較的高い △=中程度	○=ほんどのない・△=ほんどのある △=速やかにリスク低減措置を講ずる必要がある。
優先度Ⅱ	○=軽度 △=重大	○=重大なリスクがある。 △=速やかに解決すべき又は重大なリスクがある。
優先度Ⅲ	○=軽度 △=重大	○=必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある。

リスクアセスメント実施一覧表（実施記載例）

リスクアセスメント対象職場		①～③の実施担当者と実施日	④～⑥の実施担当者と実施日	⑦～⑨の実施担当者と実施日

① 作業名 (機械・設備)	② 危険性又は有害性と発生の おそれのある災害 ^{**}	③ 既存の災害防止対策	④ リスクの見積り		⑤ リスク低減措置案	⑥ 措置実施後の リスクの見積り	⑦ 対応措置		⑨ 備考
			重篤度	発生可能性			優先度 (リスク)	発生可能性	
アーク溶接作業	溶接中に発するヒュームの吸入口によって、じん肺を発症する。	防じんマスクの着用の徹底 全体換気装置による換気	×	△	III	①全体換気装置又は局所排気装置の設置及び点検の徹底 ②防じんマスクのフィッティングテストによる漏れの防止 ③防じんマスクの取替え時期を決定	○	II	作業前ミーティングで措置の徹底を確認 リスク低減措置を社内標準として明文化する。
アーク溶接作業	炭酸ガス(CO ₂)アーク溶接の際に発する一酸化炭素(CO)の多量の吸入により一酸化炭素中毒を発症する。	全体換気装置による換気	×	△	III	①局所排気装置の設置 ②狭い場所では風管換気方式による換気 ③電動ファン付き呼吸用保護具(フェースシールド形)の着用 ④送気マスクの着用	△	I	教育の徹底(COの有害性及び発生実態) 作業前ミーティングで措置の徹底を確認
アーク溶接作業	有害光(紫外線、可視光線、赤外線)により眼障害となる。	溶接用遮光保護面を装着	△	△	II	①遮光度番号3以下の中の遮光めがね(下めがね)を使用 ②遮光カーテン等により溶接作業場を仕切る。	○	○	○
アーク溶接作業	スパッタ・スラグの飛散により火傷する。	溶接用遮光保護面を着用し、眼及び皮膚の露出部をなくす。	△	○	I	溶接用かわ製保護手袋、保護帽、腕力バー、安全靴等適正な保護具を着用する。	○	I	保護具の使用の教育の徹底
アーク溶接作業	周囲の可燃物(油、木くず、布等)にアーク溶接の火花が飛び火し、火災・爆発を起こす。	可燃物を不燃性シートで覆い、近くに消火用機材を置く。	×	△	III	①作業周囲5mは、可燃物の一切を除去 ②高所作業の場合、階下にスパッタ等が落しないように、不燃性のシートで防護する。 ③消火器、火災感知器等の設置	△	○	作業前ミーティングで都度措置の徹底を確認
アーク溶接作業	溶接機の一次線が床を這つていてつまづき負傷する。	一次線は最小限の長さにする。	△	△	II	一次線をハンガーレールに架ける。	○	○	○
アーク溶接作業	横倒して放置しているシールド用ガスボンベにつまずいて転倒する。	ボンベは常に立てて置く。	△	△	II	ボンベ立てを製作し、倒れ止め チェーンをかけておく。	○	○	○

災害の重篤度 ×=致命的・重大 △=中程度 ○=軽度

発生可能性 ×=頻繁・可能性が高いか比較的高い

△=時々・可能性がある ○=ほとんどない・可能性がほとんどない

△=速やかにリスク低減措置を講ずる必要があるリスクがある。

II=必要に応じてリスク低減措置を実施すべきリスクがある。

※災害に至る経緯として「～なので、～して～」+「～になる」と記述